

第4章

高等研として直ちに取り組むべきこと

第3章に述べた多様な問題意識に対しては多くの検討部会を立ち上げて相互関係に配慮しながら議論を進め、解決への道筋を明らかにしていく必要があるが、一度にこれら全てを取り扱うことは難しい。

地球上の資源が有限であるという認識のもとに最も大切な課題として、まず次の3つの課題について部会を立ち上げ、相互関連性に配慮しながら集中的に議論し、2、3年である程度の結論を得ることを目標とする。これらの課題を集中的に検討する中で、新しく部会を作りて検討するのが適当であると判断される課題が出てくれば増やしていくことにする。



1. 将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方

現在、科学技術研究体制のグローバル化、デジタル技術の革新的進歩、社会経済が解決すべき課題の複雑化・グローバル化、社会経済的価値創造と科学技術研究の接近といった状況の下で、数百年のスパンで築かれてきた近代科学の方法とその思想的枠組みが大きな転換期を迎えている。

この問題については世界の各所で様々な議論が行われているが、これらを歴史的かつ同時代的に俯瞰す

るとともに、学問とは何か、科学技術とは何か、大学とは何かといった根本的問題についても再検討する。その中で特に迫りくる有限資源の地球、深刻な環境破壊・汚染といった地球社会が直面している問題を前にして、科学技術活動をどのようにすべきかを具体的に検討することが大切である。そして世の中に問い合わせる活動をする。



2. 循環型、定常経済社会の構築の必要性とその方策

人類にとって差し迫った課題である有限資源の地球を考えた時、資本の飽くなき富の追究という現代資本主義の形態のままで行けば、地球資源の枯渇を招き、貧富の差を拡大し、人類に早期の破滅をもたらすことは明らかである。したがって進歩発展という概念を越えて、**定常的、循環的な経済、持続可能な社会を構築し、貧富の格差ができるだけ縮小し、文化的な生活を保障する社会にしていくべきであろう。**その姿とそこに軟着陸していくための方策を検討する。

そのためには循環ということの定義とその具体的な内容を明確にすることが必要である。そして循環の度合い、すなわち循環率を計算できるようにし、これを各国、各社会、あるいは各分野に適用し、循環率の低い社会あるいは分野はどこに原因があるかを明らかにし、制度的、科学技術的に改善できるよう検討する。そのためには、種々の社会的、政治的な枠組みや規制、あるいは解決のための科学技術等を国際的に作っていく必要があり、これを政策的立場から検討する。

② 循環率を計算する

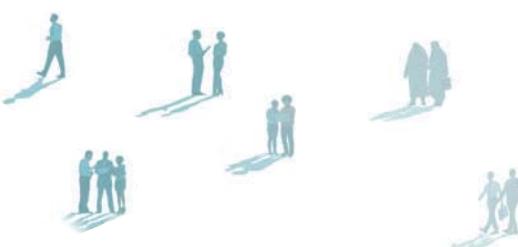


④ 種々の社会的、政治的な枠組みや規制、解決のための科学技術等を国際的に作る



① 循環の定義と具体的内容を明確にする

③ 制度的・科学技術的に改善する





3. 多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存の方策

種々の考え方、多様な価値観、倫理観、宗教等をもつ人々や社会、国家が平和的に共存できない原因は何か。その原因を取り除くための方策、そこから平和的共存に到る道をどうすれば描けるかについて検討する。そのためにも現在広く使われている経済活動の指標であるGDPに代わる人間中心の価値観に基づく指標を検討し、これを世界的に議論するネットワークを構築する。そこでは有限の地球資源を大切にした循環型、定常経済社会と、価値観、倫理観、宗教等の違いを克服して人々が平和共存できるための方策という視点を重視する。

この課題は極めて困難なもののように思われるだろうが、人類はこれまで倫理、道徳、あるいは宗教などによって克服する努力をしてきた。類似の課題は既に世界の各所で取り上げられ議論されているので、まず、これらを集積し俯瞰的に検討する。寛容と協調、互恵の精神を基盤にもつ日本において検討することによって、他にない観点からの提案ができ、世界におけるこの種の議論をリードすることができるだろう。

4. これらの課題の検討について、開かれた場をつくることの重要性

上記の3つの課題は有識者による検討部会をそれぞれにつくり鋭意検討するが、いろいろな局面において社会の多くの人達に検討内容を明らかにするとともに、そういう人たちの意見を求め、検討を深めていくことが必要である。こういった場は適宜シンポジウムの形式であったり、またネットを活用していくことも検討に値するだろう。特に次世代を担う若い人達との協働の議論の場を工夫すべきであろう。このような活動によって高等研の研究活動の重要性が社会に広く認識されることにも繋がっていくことになる。

これら3つの課題は相互に密な関係をもつので、常に全体を調整し、情報交換と相互交流をしながら議論を進めることが大切である。たとえ10年以上かかるとしても、地球規模でのプラットフォームを形成し、実現に向けて努力していくことが必要であると考える。これらの課題を有効に実行していく体制と方法について、高等研の30年にわたる実績と限られた資源を踏まえて、現実を見据えて至急検討する必要がある。

